

平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりが「確かな学力」を身に付けるため、組織的な授業改善を推進するとともに、個に応じた学習の機会を提供する。</p> <p>②部活動、生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性、主体性を育む。</p>	<p>①「確かな学力」の育成と定着のため、生徒主体の効果的な学びのあり方について研究成果を活かしながらより一層の授業改善を進めるとともに、指定校としての研究成果をまとめ、学習支援体制の再構築を図る。</p> <p>②生徒の主体的活動を促進するとともに、部活動への加入率と定着率の向上に努める。</p>	<p>①習熟度別授業の展開により、生徒一人ひとりに応じた学習指導を推進する。</p> <p>①生徒一人ひとりの学習意欲の向上や学力の定着に向けて、学習評価の改善を行う。</p> <p>①学習サポート員を活用した学習支援体制の再構築を図る。</p> <p>①落ち着いて授業ができるよう学習環境の整備を行う。</p> <p>②生徒が主体的に行事を企画・運営できるよう指導助言を行い、達成感や有能感を味わわせる。</p> <p>②部活動加入率や定着率の向上のため、新入生を対象とした部活動紹介を充実させる。</p>	<p>①生徒一人ひとりに応じた学習指導ができたか。</p> <p>①学習評価の改善ができたか。</p> <p>①学習支援体制が確立し、十分な支援ができたか。</p> <p>①適切なクラス編成と時間割を調整できたか。</p> <p>②生徒会行事を通して、より多くの生徒が達成感や有能感を味わったか。</p> <p>②部活動の加入率や定着率が向上したか。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>①基本的な生活習慣の確立を図り、生徒の自己指導能力を育成する。</p> <p>②生徒一人ひとりの課題に対応した支援体制を構築する。</p>	<p>①生徒自らが自分自身を律することが出来るよう予防的な生徒指導を中心に行う。</p> <p>②いじめ防止に向けた体制の確立を行う。</p> <p>②軌道に乗り出した生徒支援体制をより充実させるため、SCやSSWと連携を一層密にし、生徒一人ひとりに適切な対応を行う。</p>	<p>①学年ごとに生徒の情報を迅速にまとめ、共有し、対応するといった、問題行動を未然に防ぐ体制を確立する。</p> <p>②担任だけでなくすべての職員が、生徒の状況を観察するとともに相談にのるなどして情報の共有や迅速な対応を行う。</p> <p>②SC・SSWとの定期的なミーティングを実施し、生徒についての情報共有と適切で迅速な対応ができるよう支援体制の強化を図る。</p>	<p>①特別指導件数や学年での指導の件数が減少したか。また近隣からの苦情が減少したか。</p> <p>②生徒からの情報が迅速に処理でき、いじめを早い段階で対応し防止できたか。</p> <p>②SC・SSWとの定期的なミーティングが実施できたか。また、それにより適切な対応を迅速に行うことができたか。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが自発的な進路選択を行えるよう動機付けを重視するとともに、進路実現に向けた支援を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部との連携を強化し、きめ細かいキャリア教育を組織的・計画的・継続的に推進する。 望ましい勤労観・職業観育成のために「総合的な学習の時間」とLHRを中心に進路学習を展開する。 生徒の主体的なキャリア設計を支援するため、各種情報を収集・整理して活用を促す。 「社会と情報」などと連携し、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 職業観を育成し、将来設計をもとに、卒業後の進路を考えさせることができたか。 進路未決定者を減少させることができたか。 生徒の希望の進路を実現させることができたか。 コミュニケーション能力を向上させることができたか。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域、家庭との連携を深め信頼される学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動が十分に理解されるよう、様々な機会において説明内容や方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校説明会」「中学校訪問」「学校案内」「ホームページ」等のメディアを通じて、教育活動を積極的に発信する。 地域での催事情報を積極的に収集し、生徒、教職員で参加していく。 コミュニティスクール導入に向け、地域との連携をより活発に実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明会の来校者人数が増加したか。また入学者選抜の倍率が上がったか。 ホームページ更新について、整理し計画した通りに更新できたか。 地域イベントに参加できたか。 コミュニティスクール導入の準備ができたか。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 事故・不祥事防止に教職員が学校一丸となって取組むとともに、学校全体の教育力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学者選抜業務や成績関連業務において事故を起こさない体制を確立させる。 学校ミッションを理解し、創意工夫ある取組を進めていく主体的な姿勢を醸成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績処理マニュアル等の見直しを行い業務の効率化と事故防止体制の確立をすすめる。 成績処理業務に入る前に教科代表者会議を開き、適切に成績処理業務ができるよう注意を促す。 若手教員に対し、本人の特性を踏まえながら組織的な学校運営を意識させた助言指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実情に合った成績処理マニュアルの見直しが行えたか。 成績処理において業務の効率化と事故ゼロを達成できたか。 若手教員に対し、中堅教員やベテラン教員からの助言指導が実施できたか。